令和4年度 下野市立石橋中学校第3回学校運営協議会議事録

令和5年2月6日(月)
14:00～ 於：石橋中学校会議室
記録 秋山

参加者（敬称略）

学校運営協議会委員

青木 正憲（委員長）、柏崎 松美（副委員長）、池上 行雄、大塩 宗里、中川 賢一、山口 容子、
小島 恒夫、西本 由利子、田熊 利光（校長）

事務局

齋藤佳代子（教頭）、秋山 実（教務主任）、武井 一浩（生徒指導主事）、矢口 裕子（事務長）

1 校長挨拶

- ・本年度のまとめになるのでアンケート結果・考察を発表し、意見をいただきたい。
- ・2月1日～3日にスキー宿泊学習に行った。生徒は喜んでい。1日目の夜に立志式を行ったが、感動的な式であった。これから卒業式に向けて学校全体で動いていく。

2 学校運営協議会アンケートの説明

①学習指導の充実（秋山）

- ・「分かる授業」の実践を心がけている。
- ・生徒の学び合いのための教材研究。
- ・「計画的に学習を進める」の項目が低いので計画の立て方の指導。
- ・生徒の頑張りを認め、賞賛し、今後の学習につなげる指導。

②心の教育の充実、安心・安全な学校づくり～学校の現況、生徒指導面から～（武井）

- ・評価は、生徒よりも保護者、保護者よりも教員とだんだん厳しくなっている。大人は、悪いところに目がいってしまう。だが、全体的には良い評価になっている。
- ・長期休業中の「家庭であいさつ運動」というものを行っているが、親の評価は高い。冬休みの家に帰ったときのあいさつが生徒の評価が低いが、これは、早く家に帰るために、家の人と合わないということも関連している。あいさつに関しては来校者からも良い評価を得ている。
- ・大きな交通事故はないが、自転車の乗り方に関しては、地域から苦情が来ることもある。そのときは、生徒へ連絡したり、該当の場所を通る生徒に指導をしりするなどその都度注意を入れている。また、場所の確認も行っている。危険箇所等もPTA生活指導部に協力してもらい、確認してもらっている。
- ・いじめは0というわけではないが、大きな事案になっていない。11月の「いじめ防止強化月間」では、生徒会を中心にして各学級で話し合いを行った。生徒には良い刺激になった。
- ・現在、不登校が最重要課題。何かあるとすぐに休むような状況だ。なかなか担任と会えないという生徒も10名ぐらいいる。現在スマイル教室通級者は、15名。
- ・学校で別室登校（ステップルーム）も認め別室登校する生徒も増えた。16名の利用者がいる。学校へ来られるようになり、教室へ戻れたという生徒もいる。先生方の協力により成り立っている。刺激に対して過敏な生徒も増えているが、ステップルームを利用して教室へ戻れるようになればと考えている。新たに不登校になる生徒もいるがなんとか頑張っている状態。病気やけがをして教室へ行けない生徒には、タブレットを利用して授業を受けさせたり、家庭訪問をしたりするなど、家庭と連携しながら取り組んでいる。

③地域とともにある学校について（齋藤）

- ・コロナで2年中止になったが、今年度は、グリムの森の装飾の手伝いができた。部活動単位で、準備や後片付けに参加できた。席書大会の準備もお手伝いできた。地域との関わりの中で学ぶ機会がもてた。
- ・5月30日～6月1日には事業所の協力を得られ職場体験学習を実施できた。生徒には、沢山の学びがあった。
- ・文化祭では、機材を借りたり設置を手伝ってもらったりした。
- ・更生保護女性会には花壇の清掃をしていただいている。
- ・学校ボランティアにはアトリウムの清掃をしていただいているが、西本さんの尽力で来年度より清掃業者が入り清掃していただけることになった。

3 学校評価アンケートの結果報告（齋藤）

- ・昨年度よりも全体的に生徒、保護者、教職員とも高い評価になっている。特に道徳の「心豊かな生徒」に関して、小学校との連携した取り組みもあり高い数値になっている。先生も生徒も「温かいクラス作り」を意識している。
- ・「自主学习への取り組み」が低い。家庭学習の習慣化に向けて委員会を通して先輩の生の声を届

けるようにしている。また、家庭にも協力を呼びかけている。

- ・「交通ルール」に関する意識については、命に関わることなので100%を目指す。
- ・保護者も学校に来て、実際に生徒の活動を見る場面が増えたことで肯定的な意見が増えた。
- ・「将来の目標」に関しては、3年生は高いが、1・2年生は低い。自分の将来が見えてくると高くなるので、進路学習・進路指導の充実が必要。

4 学校の現況、予算面から（矢口）

- ・今年度予算とコロナ対策の補助について例年通りの支出。年度末に向けて、燃料費と備品代を控えている。市の学校予算が来年度3%減少だが、下野市の学校全体で割り振るので、大きな減少はない。
- ・来年度はコロナ補助に関しては、換気に関する物品に使う。
- ・学校集金は1月で終了。今後未納者への督促を行う。37名が保護の受給。
- ・英語検定の助成金で1人年1回受験料が半額になる。ここまで延べ26名が申請している。

5 「学校評価のまとめ・学校の現況」についての意見

山口	・英検受検者が26名というのは少ないのでは。
矢口	・まだ、申請していない生徒もいる。制度については周知している。
山口	・せっかくの制度だからもっと受けてほしい。
青木	・アップルTVが60万を超えているが。
矢口	・市からの指定なのでこのようになった。
小島	・学習への取り組みに関しては、家庭の問題。大人が学んでいない。
日本は、国際的に見ても学んでいない。大人が学ばないのに子どもに学べといっても説得力がない。中国や韓国では、大人が必死に学んでいる。日本は方向性を見失っている。
	・下野市出前教育委員会にも申し込みがない。このようなものを活用して大人が積極的に学ぶ。
	・学校からのいろいろな情報開示や連絡をLINEを使ってできないか。SNSを使って大人が活用方法を子どもに示してみてもいい。
柏崎	・進路学習に関しては、ゼミの研究発表を生かすことができないか。ゼミでの学習を通して刺激を受けたり目標を見つけたりすることができるのでは
	・ゼミの経験から深く学びたいとか、足りないものに気付くこともある。早い段階から生徒に気付かせ、きっかけ作りをしてみてもいい。
小島	・SNSに学年便りなどを載せてみては、反響も大きくなるだろうし、やる気になるのでは。いいことはどんどん伸ばした方がいい。リスクもあるが、時代の流れに沿ってやってみては。
山口	・情報公開するには慎重に。「顔が出る、素性が知れる」ことを嫌がる人もいる。
小島	・慎重になるのは分かるが、縮こまっていたは何もできない。停滞するだけ。
青木	・良い情報ならばいいが、ネット上にあげると全世界に拡散される。善人ばかりならいいが、そうとは限らない。子どもは平気で実名をあげる。あっという間に拡散してしまう。相当慎重にやらないといけない。学校としてSNSを情報開示にいかしていくには、時期尚早。リスクマネジメントが大きい。
小島	・その教育を学校でやれば良い。
青木	・啓発活動がまだまだ十分ではない。世の中良い人ばかりではない。受け取った人次第でどうにでもなってしまう。
柏崎	・周りの状態が追いつかないうちにやっつけてしまったりかえしのつかないことにならないように。利用することもいずれ必要だが、周囲が追いつかないうちにやっつけてしまうというのではなく、考えながら方法を模索して無理のないように進めた方がいい。
田熊	・たとえば保護者限定での配信などが考えられる。
山口	・やるのならば生徒の意見を聞くのか。生徒にも人権があるので
西本	・集金に関して、未納は給食費など
矢口	・月々のまとめでの金額。項目別にはできない。
西本	・督促は担任が連絡するのか。
矢口	・まずは、担任から
西本	・人数が多くなると大変だから、みんなで助け合ってもらえれば。
	・部活動の地域移行について外部指導者の確保など石橋中学校ではどのようなになっているのか。
田熊	・学校でどうというより、市で対応するので、このあと市で会議をもつ。指導者がいないのが現状。
中川	・議員からもどんな感じなのか聞かれたことがあるが、難しいと答えた。
田熊	・スポーツクラブでもあれば別だが。そのような施設がなければ非常に難しい。

- 大 塩
 - ・アトリウム清掃を手伝ったことはあるが、あの作業を継続してやるというのは大変なこと。道筋をつけて予算までついたのはすばらしいこと。うまく行ってほしい。
- 齋 藤
 - ・保護者アンケート結果の考察は学校が行ったのか、保護者が行ったのか。
- 大 塩
 - ・保護者ではなく、学校が行った。
 - ・キャリア教育に関しては、自分の学生の時の経験として、教育実習の前後で考え方が全然違ってきた。実際に経験して働く人の声を聞くことで考えが変わる。働くことに関して周りの大人が教えてあげることが効率を上げるポイント。ぜひ、職場体験学習などを進めてほしい。
- 橋 本
 - ・大人の姿を見せることが子どもに刺激を与える。働く大人と接することで自分の将来を考えるとと思う。
 - ・今の生徒は読書をしなくなったというのが実際はどうか。
- 田 熊
 - ・読まないというのが現状。読書Weekのような期間がないと読まない。
- 橋 本
 - ・公民館も学校と協働活動ができるように取り組んでいきたい。公民館の学習室も利用してもらっている。
 - ・次年度石中の花壇を利用して講座を開くので協力していきたい。
- 池 田
 - ・「異業種の方の話聞く」という活動を南河内や国分寺では行っているが、ぜひ、石橋でもやってほしい。
- 中 川
 - ・国分寺では、国分寺公民館を使って生徒の作品を展示している。石橋でも石橋公民館を利用して生徒の作品を展示してみてもどうか。
- 橋 本
 - ・文化部の発表の場として公民館を利用してもらっても良いと思う。
- 中 川
 - ・学校に関係のない人も生徒作品を目にすることができる。
- 柏 崎
 - ・皆さんに知っていただくことができる。

6 石橋中学校区学校運営協議会（青木・柏崎）

- ・今回は第1回ということでしたが、他校のこと、他の中学校区も知ることができた。（青木）
- ・「みんなで石橋の子どもを育てる」という気運を高めることができれば。（柏崎）

7 次年度への提言・要望

- ・栃木県内でも、学校運営協議会が主催して、学校の教育活動に協力している事例がある。みんなで学校を盛り上げられれば。（柏崎）
- ・山口県などでは小中高とも100%学校運営協議会が作られている。空気づくりが必要。

8 その他

- ・体育館の照明について2023年度調査し計画を立てる。2024年度に改修の実施。